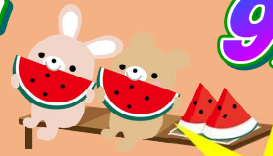


生涯学習情報紙

2020

9月

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館 第321号



教職員フィールドワーク

村内小中学校の先生方を対象としたフィールドワークを実施しました。村内にある文化財や名所など十数カ所を、中山昭二（大和村文化協会会長）さんの説明を聞きながら、実際に集落を歩き見て、聞いて、触れて、改めて大和村の素晴らしさを感じました。大和村の昔の人々の生活の詳しい説明や、厳しい奄美の自然とともに共存してきた先人達の知恵、たくましさなどには大変驚かされました。※写真（下段中央）は今里集落にあるフクギで、樹齢は500年を超えるのではとされているそうです。



村民体育大会は

中止



※11月8日に予定しておりました村民体育大会は、全国的なコロナの感染拡大の影響により今年の村民体育大会は中止することに決定いたしました。

村民体育大会が台風や天候以外の理由で中止になるのは初めてのことです。中止は残念なことです。大和村は医療機関もひとつしかなく、また高齢者の多い等の現状から中止と決定いたしました。御理解のほど宜しくお願いいたします。

青少年ふるさと美化活動



各集落の子ども会では、夏休み期間中にラジオ体操や朝読みをはじめ、集落美化活動や追い込み漁など様々な取組を行いました。

通学路安全点検実施



通学路の現地調査を各関係機関と合同で実施しました。通学路に子ども達にとって危険な箇所がないか専門的な目線で点検し、対応が必要な箇所は速やかに対応を進め、安全な通学路となるように努めていきたいと思えます。

植物標本名付け会（8/18）

子ども達が、採取した植物を持ち寄り奄美野生生物保護センター後藤専門官と図鑑を片手に名前を調べながら、植物の名付け会を実施しま

奉安殿（ほうあんでん）



奉安殿は、教育勅語（ちよくご）と天皇、皇后の御真影を納めていた建物です。国民学校の敷地内に建てられ、太平洋戦争敗戦後の1946（昭和21）年に、GHQが教育勅語の神聖化する取り扱いを禁止しました。1948（昭和23）年には、新しい日本国憲法の考え方にそぐわないことから、衆・参両院で排除の決議がされ、全国各地で奉安殿の取り壊しや焼却が行われたり、物置代わりに使われる物もありました。現在奄美には12の奉安殿が現存しています。敗戦後から昭和28年まで米軍政府の統治下にあった奄美には、決議による取り壊しの報が伝わらなかったため、多くの奉安殿が残ったということです。中でも今里小学校に

中山昭二兄の四方山話（よもやまばなし）

心に残るオリンピック選手（よだ いくこ）

本来であれば今年の夏は東京オリンピックで日本中が盛り上がりつつあったことと思うが、前期の東京オリンピックを思い出してみたい。小学5年生であった昭和39年、私の母校大和校は時間割を決めて家庭科室にある白黒テレビで日本選手の応援をした。小中合わせて400人近い児童生徒数であるので学年ごとの観戦であった。すし詰め状態の熱気むんむんの中で先生と一緒に声援を送ったことを昨日のことのように覚えている。

活躍した多くの日本人選手の中で特に記憶に輝いている選手はなんといっても女子80mハードルで決勝まで進んだ依田郁子選手である。彼女は発送前になると全身にサロメチールを塗る。足だけではない。腕や肩や腰やほほにまで塗るのだ。その後自分のコースをほうきで掃く行為は誰が見ても異様だが、彼女は完全に自分の世界に入り他の目など眼中にない様子である。コースをほうきで掃いた後は、倒立したり後方回転したりして自分の気持ちをスタートに向け集中させていた。全選手がスタート前に並んだときに驚いたことは依田郁子選手の素晴らしい発進した下半身であった。それは、隣コースの外国人選手にも負けない迫力ある下半身であった。結果は5位であったが、日本女子陸上選手が短距離競技で世界大会で決勝まで進んだことは未だに依田郁子選手一人である。その後、大和中の男子は運動会でサロメチールを塗ることが流行った。遅い生徒も塗っていた。

人間は物事を極めてくると奇人になることがあると言われるが、彼女はそこへ近づいたスポーツ選手だったのではと思

9月の花～コスモス（花言葉～乙女の真心・調和・謙虚）



秋桜

花が秩序立って咲くことから、ギリシャ語で調和や秩序を意味することから「コスモス」と付けられたと言われています。コスモスは秋になると野山に花が咲くことから、日本に自生している植物だと思われがちですが、自生地は南米のメキシコで、日本に渡来したのは明治時代と言われている

